

## 令和7年度 第2回学校運営協議会【報告】

1 日 時 令和7年12月16日（火）午前10時から午前11時30分まで

2 場 所 藍住中学校 校長室

3 議 事

○あいさつ（学校長）

○学校教育診断票（保護者用）の結果から

○全国学力・学習状況調査（生徒質問）の結果から

○質疑応答

4 出席者

- ・学校運営協議会委員3名
- ・学校運営協議会アドバイザー1名
- ・藍住中学校管理職3名

計7名

5 協議内容

（1）「学校教育診断票（保護者用）の結果から」について説明

（2）「全国学力・学習状況調査（生徒質問）の結果から」について説明

（3）質疑応答

A：説明した内容は、12月上旬にとった学校教育診断票の保護者用の集計結果と、4月にした全国学力・学習状況調査の生徒質問の中から学校経営と照らし合わせて重要だと思われる項目15を選んだものである。学校教育診断票の生徒用と教職員用は、インフルエンザによる学級閉鎖のため、まだ途中なので、集計としてはまだ出せていない。学校教育診断票については、昨年度よりも回答率が上がり、内容的にも昨年度よりよい評価をいただいたものが多いことがありがたい。課題は、はっきりしていて「学力向上」である。

D：学力向上面は厳しいものがある。

F：アンケートは設定方法によっては見方は変わってくる。個人的な評価の意識の違いもあると思う。

D：塾に通っている生徒の調査はしているのか。

A：最近は行っていない。

F：「9. 毎日家庭学習をしているか」の項目について、学年別の結果は出るのか。学年ごとの違いが出ると、どこの学年にアプローチをかけるとよいのかがわかってくる。家庭学習の評価について、中3が押し上げているのか、1・2年が下げているのか。ここが数値として出てくれば分かりやすい。

D：高等学校を卒業してからの進路の取り方が以前とは変わってきている。中学校は義務教育だが、変わってきているのではないだろうか。

A：10年以上前に進路の仕事をしていたときは、ハローワークを通じてテクノスクールの募集が来て、見学をする生徒がいたが、最近はない。それとは別に通信制の高校を考える生徒は増えてきている。中学卒業後の進路選択も変わって

きている。

D：県は、職業訓練校を縮小していたのを拡大の方向で考え直している。

E：話は変わるが、勉強自体は嫌いでも、勉強したことが将来役に立つと思っていることに感心した。

F：学校が目指す「家庭学習の在り方」はあるのか。

C：教職員の視点としては、出している課題を出しているかということか。

A：学校評価アンケートの家庭学習に関する項目を他校と比較してみると、本校生徒の状況がより分かってくるのかと考える。校区の小学校の結果とも合わせて考えると、もっとよく見えてくるを思う。

F：標準偏差などは分かるのか。

A：全国学力・学習状況調査は出ているはず。結果には年色はある。

B：授業の雰囲気にも年色がある。3年生は勉強は嫌いだけど、しなければ仕方がないのような。

D：保護者の意識改革も必要。

F：現段階で生徒のデータがないのが難しい。生徒の内発的な動機付けが必要である。

A：「教職員が分かりやすい授業にするための工夫をしている」という項目の評価が伸びているのは、教職員にICTの利活用が定着してきていることが数値として出てきていると考える。

F：データを読み解く基準は家庭によって違う。評価指標のようなものはないか。質問の言葉の捉え方も人によって違う。

A：今日の話の中で出てきた集計結果の「学年ごとの比較」や「保護者用・生徒用との比較」をすることで、どこに働き掛ければよいかがはっきりするので、ぜひやってみようと思う。

C：「社会の役に立ちたい」の年ごとの上昇率がすごい。今の教育の方向性と合致はしている。探求的な学習に力を入れていこうとしている現在、逆に言うと、アンケートによって言わされているようで、今の生徒たちはかわいそうだなとも思う。昔は、こんなことを意識せずに学生生活を送っていたし、社会に出てからそういう力は付けてきた。

G：本日は貴重な意見をありがとうございました。